

## 【長生村長賞】

やまだ かずひこ  
山田 和彦

オルゴールの手紙

母さん、2階の窓から公園を見ると、銀杏の枯葉が地面に落ちて、まるで黄色いじゅうたんを敷いたように見え、その上を孫たちが歓声をあげて遊んでいます。

この日は、朝から眩しいほどの空が広がっていましたので、朝食を済ませると、裏庭の物置小屋を整理することにしました。

戸車が錆びついて、開閉にコツがある引き戸を持ち上げながら、久しぶりに小屋の空気を入れ替えました。

中を整理していると、そこは時の流れを凝縮したような空間でした。

棚の隅に小さな木製の箱が目に入ったので、何の箱だろうと思いながら外に出してみました。

記憶はすぐよみがえり、当時のことが浮かんできました。

それは小学校のころ、小児結核にかかり自宅療養をしていたとき、母さんがクリスマスにと、私にプレゼントしてくれたオルゴールでした。

ふたを開けると「ポロン」と微かに優しい音がしました。ついでにセピア色をした小さな紙が現れ、広げてみると、母さんが私にあてた手紙が入っていました。

「はやくよくなって、元気に学校行けるといいね」

女の子へのプレゼントみたいだと思いましたが、

療養中の私は、布団をかぶって何度もネジを回し聴いていた覚えがあります。

母さん、私は今女房と近くに住む娘夫婦や、6人の孫たちと元気に過ごしています。

母さんの祈りが半世紀以上経った今、物置の奥からよみがえったような感じがしました。

(愛知県/70歳/男性/無職)

### 入賞者の作品への大切な想い…

子供の頃、病気がちだった私を大切に育ててくれた母への思いを書いてみようと思いました。